

【広域ブロック自立施策推進調査】

フォローアップ報告書

調査名		7.「三遠南信流域都市圏」魅力・活力向上に関する調査	
調査主体	幹事府省(庁)局課名	経済産業省関東経済産業局地域経済部地域振興課	
	関係府省(庁)局課名等	国土交通省中部地方整備局企画部広域計画課、農林水産省東海農政局農村計画部農村振興課、国土交通省中部運輸局企画観光部地域振興推進室	
調査地域		愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域からなる「三遠南信地域」	
調査年度		平成20年度	
配分額		18,100千円(消費税を含まない)	
調査概要	調査内容	平成20年3月、愛知県、静岡県、長野県3県の県境地域である三遠南信地域では、地域住民、大学、経済界、行政などの関係者によって「三遠南信地域連携ビジョン」(以下、「ビジョン」という。)が策定された。本調査は、ビジョンの基本方針となっている「持続発展的な産業集積の形成」及び、「中山間地域を活かす流域モデルの形成」に重点を置くものであり、具体的には、農工商連携及びバイオマスの利活用による産業クラスターづくりや、中山間地等において少量しかないが特徴ある地域資源の販路拡大による移出産業化の方向を検討することによって、「三遠南信流域都市圏」の持続発展的な産業集積の形成や中山間地域の自立を目指し、ひいては、中部圏広域地方計画の推進を図ることを目標としている。その目標を達するため、平成20年11月にビジョンの推進組織である「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」(事務局:浜松市企画課)との連携により、市町村、商工会・商工会議所、農協・森林組合・漁協、地域企業等(食品企業、非食品企業、スーパー等)に対するアンケート調査及びヒアリング調査を実施するとともに、浜松駅前及び東京都板橋区内の商店街において地域物産の販路拡大のための社会実験(地域物産の販売実験)を実施した。	
	調査結果(成果)	アンケート調査及びヒアリング調査をとおり、農工商連携、バイオマス利活用の推進に関して、企業側と行政側の両面からの課題が明らかになったとともに、地域物産を活用した販路開拓では、社会実験や「三遠南信コミュニティビジネス研究会」をとおり、消費者の商品ニーズや、アンテナショップ設置に対する期待を確認することができた。これにより、産業クラスターを意識した農工商連携やバイオマス利活用に関わるモデル事業や、中山間地に賦存する地域物産の流通を含めたモデル事業の提案をとりまとめた。調査結果を関係市町村、商工会・商工会議所等に広く公開し、県境を越えた多様な主体の参画による事業創造の方向を整理し、具体的な事業を進めるにあたっての「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」のあり方等を検討していくための視点を明らかにした。	
	関係する広域地方計画(中間整理(案)等)	・中部圏広域地方計画中間整備(平成21年3月26日、中部圏広域地方計画協議会幹事会資料) 第4章第2節(13)	
		調査結果の活用状況	調査結果を受けた具体化
計画	期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年2月10日に浜松市で開催された「三遠南信サミット2009in遠州」(三遠南信地域の市町村、商工会・商工会議所、大学、住民等が参加)において、本調査の中間報告を実施した。 ・平成21年11月に豊橋市で開催予定の「三遠南信サミット2009in東三河」において、本調査の最終結果を報告する予定である。 ・地域物産の販路拡大に関連し、アンテナショップ機能等について組織づくりを含めた検討を開始する予定。 ・社会実験で得られた消費者の意見等を出品者にフィードバックし、商品開発に活用していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部圏広域地方計画中間整理(平成21年3月26日、中部圏広域地方計画協議会幹事会資料)最終案第4章第2節(13)に「三遠南信流域都市圏活力向上プロジェクト」が記載された。 ・ビジョンの推進とともに、自立的な流域都市圏の形成を促進するため、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」の事務局機能を強化し、平成21年4月から浜松市、豊橋市、飯田市の3名の専属による推進体制(浜松市企画課内に設置)を構築する。
	21年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年11月13日に開催された「三遠南信サミット2009in東三河」において、本調査の結果を報告し、また、農工商連携や地域資源の発掘・活用、キャッチコピー等による情報発信について議論。 ・三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)の広報誌において、特色ある物産を販売している道の駅やアンテナショップについての特集が組まれたほか、三遠南信地域の知名度・認知度の向上を図るため、地域資源を紹介する情報誌「三遠南信ガイドブック」を発行。また、SENAにより、「三遠南信「塩の道」物産展一ええじゃないか市」を開催。 ・平成21年度広域地方計画先導事業「県境を越えた広域的な地産地消圏の形成プロジェクト(国土交通省委託事業)」において、SENAでは、三遠南信地域の地域資源の循環による県境を越えた広域的な地産地消の実現を目指して、地域資源の発掘や情報発信、商品化可能性調査などを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SENAの事業計画に、本調査の結果を受けて、三遠南信アンテナショップの設置について検討を行うことが記載。
フォローアップ	22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年11月22日に開催された「三遠南信サミット2010in南信州」において、農工商連携等による新産業の創出、一次産業の高度化・ブランド化等について議論。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SENAの事業計画に、本調査の結果を受けて、三遠南信アンテナショップの設置について検討を行うことが記載。 ・浜松市・豊橋市・飯田市において、企業立地促進法に基づく基本計画「三遠南信地域基本計画」を策定し、ビジョンを実現するため産業集積を進める4つの業種の1つとして、農工商連携を切り口として、IT技術や光技術を生かした農業や環境に配慮した農業等を推進し、食と農を機軸とした6次産業化を加速する「新農業」を掲げた。 ・三遠南信クラスター推進会議では、平成22年度広域的産業集積活性化支援事業において、地域農業から生み出される付加価値を高め国際競争力を持つ産業に発展させる「新農業クラスタープロジェクト」を実施。

23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年10月24日に開催された「三遠南信サミット2011in遠州」において、新農業・農商工連携の取組みとして植土工場の紹介や、地域物産の販路拡大策として各地域のB級ご当地グルメのグランプリが開催されたことが紹介された。 ・SENAでは、三遠南信地域における広域的な地産地消圏の形成を目指し、三遠南信地域の地域で開発した商品、ブランド化を目指す商品、地域の食材を使った特徴ある商品など、魅力ある商品を紹介するイベントとして、「三遠南信地域イチオン逸品展」を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SENAの事業計画に、本調査の結果を受けて、三遠南信アンテナショップの設置について検討を行うことが記載。 ・三遠南信クラスター推進会議では、平成23年度成長産業振興・発展対策支援事業(地域企業立地促進等事業費補助金)において、医食農連携のテーマに取り組み、地域農業から生み出される付加価値を高め国際競争力を持つ産業に発展させる「新農業クラスタープロジェクト」を実施。
総括的評価	<p>調査目的の達成状況とその要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの域内事業者への調査により、事業者が抱えている販路・生産についての現状を知ること成功。 ・今回の調査を踏まえ、平成21年度には、広域地方計画先導事業「県境を越えた広域的な地産地消圏の形成プロジェクト(国土交通省委託事業)」が実施され、三遠南信地域の地域資源の循環による県境を越えた広域的な地産地消の実現を目指して、地域資源の発掘や情報発信、商品化可能性について、今回の調査からより踏み込んだ考察が行われた。こうした調査事業を元に、各種イベントが開催されたほか、年1回開催の「三遠南信サミット」において必ず議題になる等、ブロック内の交流・連携が一層推進された。よって当初の期待された効果は達成されたと考えられる。 <p>調査手法の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域物産販路拡大調査において、マーケティング手法を探るためのアンケート調査を行っているが、地域産品のブランド化や販路拡大を検討するのであれば、三遠南信地域以外の大都市圏イベントでのアンケートが1回というのは少なかった。域内と域外との間の知名度等のギャップを知るためにも、域外のイベントや小売店からの調査母数を増やし、調査の客観性を高めるべきであった。 	